

# 市民科学

について伺いました



Professor Kobori

皆さんの参加で、Webを用いた市民科学を育てていたら  
生きものを調べ、その情報を蓄積し、世田谷区、日本、世界で共有し、  
生きもののために皆で活用できる世界へ

生物多様性は日本、世界で減少しており、保全策を実施することが求められています。しかし、そのために必要な生物データやその変化を知る情報は日本の自治体でも極めて限られており、世田谷区も例外ではありません。現状を改善するには新たなアプローチが必要です。そのための有効な方法として、Webを用いた市民科学が期待されています。市民科学プロジェクトでは、地域住民、環境NPOなどが主体となって、区や専門家、地域の多様な組織と協働して楽しみながら調査を行い、生物に関する広域的・長期的な「ビッグデータ」を集めることができます。得られた情報を蓄積し、世田谷区全体で共有し、活用することで、生物多様性の課題解決や行政の施策にも活用できます。そのためにも、「生きもの会議」の場を活用して、実践してみたいかがでしょうか。

私は、二子玉川地域を中心に、地元

の多様な組織と一緒に、自然特性や生物多様性の恵みを知るための「生態系サービス見える化研究会」や市民や学生とWebを用いた「多摩川の水辺の外来植物しらべ」を実践しています。

また、世界で最も人気のあるWebとAIを用いた市民科学のプラットフォームである「iNaturalist (アイナチュラリスト)」を用いて、「世田谷生きものモニタリング」のWebサイトを立ち上げました。「世田谷生きもの会議」でも個人、親しい仲間、団体に活用していただければと思います。このプロジェクトでは、スマートフォンを用いて、動植物の写真を撮って投稿すると、種名が分からなくともAIが候補の写真的リストを提示してくれ、その後110万人の世界のメンバーの中の専門家や有志が種を同定し、その情報は世界の生物多様性情報として共有され、だれでも活用できる仕組みです。日本には固有種が多いので、皆さんに

参加して頂き、AIを賢く育てていきましょう。楽しみながら、子どもたちとも使っていけたら、理想的ですね。

生物多様性を高めていくためには、地域にどのような生物がいるのかという情報が欠かせません。中でも活躍できそうなのが「市民科学」という視点です。そこで「市民科学」に詳しい東京都市大学の小堀洋美特別教授に、お話を伺いました。

参加して頂き、AIを賢く育てていきましょう。楽しみながら、子どもたちとも使っていけたら、理想的ですね。



兵庫島公園での水辺の外来植物しらべの結果



「iNaturalist」を用いた「世田谷生きものモニタリング」のアプリ。ぜひ下のQRコードを読み取って、登録し、見つけた生きものの写真をアップしてみてください。



## 世田谷生きもの会議 今後の予定

生物多様性を育む環境づくりの参考となる「現場見学会」

専門家を招き「勉強会」

取組団体の意見交換

などを予定しています！



1 / 27 月

## 令和元年度「世田谷生きもの会議」

申込要/参加費無料  
＜申込先＞みどり政策課  
電話 03-5432-2282  
(平日午前 8:30- 午後 5:00)  
FAX 03-5432-3083

### 午前の部 「試行！アプリで生きもの調査」

●時間：午前10時～12時10分 ●集合：成城ホール4階 集会室 B  
\*小堀洋美先生と見つけた生きものを実際にアプリで記録してみます  
\*持ち物：動きやすい暖かい服装・帽子・水筒・あればスマートフォン  
※スマートフォンをお持ちの方は、事前にアプリ「iNaturalist」をインストールし、ユーザー登録をしてお持ちいただくこととスムーズです。(アプリは Google Play と AppStore にて、無料ダウンロードが可能です)

### 午後の部 「世田谷生きもの会議」

●時間：午後1時30分～4時30分 ●会場：成城ホール4階 集会室 E  
【内容】\*生物多様性を高める取り組み紹介  
\*「活動の楽しみ」牧野ふみよさん(NPO 法人 GreenWorks)  
\*活動を「広げる」プロジェクトづくり

生きものつながる世田谷プラン リーディングプロジェクト

# 世田谷生きもの会議

NEWS 第2号 2020.01

発行：世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課 〒154-8504 世田谷区世田谷 4-21-27 電話 03-5432-2282

## 令和元年度「世田谷生きもの会議 現場見学会」を開催しました



2019.11.08

2019年11月8日(金)二子玉川公園にて、現場見学会を開催しました。区内で生物多様性に配慮した場づくりをされている団体の皆さんが「生物多様性に配慮した公園づくり」について、見学しました。当日は5団体8名の方にご参加頂きました。

集合 二子玉川公園ビジターセンター 入口テラス

time schedule

### 園内を見学

- ① ナチュモコガーデン～スタバ～いのちの森～サンクチュアリ
- ② 帰真園 …二子玉川公園の中核！生きものと親しめる場所
- ③ ビジターセンター…小さな自然のきっかけ「未就学児向けコーナー」

室内プログラム 東京都市大学二子玉川夢キャンパス / 二子玉川ライズ8階

- ① 園内の取り組み、スライド紹介 二子玉川ビジターセンター 小高 英之さん  
…生物多様性・循環への取り組み、広域的な工夫
- ② 話題提供 小堀 洋美 東京都市大学特別教授  
…「市民科学プロジェクト」事例  
…今後の世田谷区で実施可能なソーシャルネットワークの提案



### 「世田谷生きもの会議」開催の経緯

「生きものつながる世田谷プラン」の策定にあたっては、生物多様性に配慮した活動をされている多くの方々からご意見をいただき、活動団体同士の連携や、知識・ノウハウの共有、現場のマッパワ―などが課題として挙げられました。こういったご意見を受け、皆さんの活動に役立てられる場として、「生きもの会議」を立ち上げました。

「世田谷生きもの会議」が将来、目指す姿(イメージ)





# 二子玉川公園

ってどんなところ？

平成25年(2013年)4月にオープンした二子玉川公園。公園ビジターセンターの小高さん、平澤さんに、園内をご案内いただきました。

## 公園ができて7年、見られる「種」が増えてきた 「みどり」と「みず」をつなぐネットワーク

最近、特に「二子玉川公園」が認知されてきたと感じています。田園都市線「二子玉川駅」から二子玉川公園まで徒歩10分近い距離があり、「子どもの遊び場」「庭園」そして「災害対策」も施された公園です。このような公園ですが、鳥の視点で見ると、「国分寺崖線」の「みどり」と、「多摩川」の「みず」の間に位置する、

貴重な自然です。いわば「みどりとみずをつなぐネットワーク」と言えます。1,400本の木々が植えられた「いのちの森」や、斜面地にほどよく草地を残すよう工夫した「サンクチュアリ」など、7年目を迎え厚みを増してきたこれらの環境を、目ざとく見つけた生きものたちが、二子玉川公園を訪れるようになってきました。

例えば「ハヤブサ」が、公園の横に垂直にそびえ立つ高層建築の屋上から飛び立ち、公園内にいるドバトなどを、捕獲していることが目撃されています。ハヤブサは、高い樹木や崖地から狙った獲物を捕る習性がありますが、ここでは、ビルが高台の役目を果たしているようです。開園当時見られなかったカブトムシ、ヤマトタマムシ、モズ、ホントタヌキ(タヌキ)、ムラサキケマンなども、見られるようになりました。

## 多様な人が関われる場を、体験し楽しみながら いろいろな世代が参加する、住民参加の公園

「日々の公園利用者の方に伝える」ことを、大事にしたいと思っています。体験プログラムや、セルフガイド・塗り絵・展示などを通して、楽しみながら伝わるように、工夫しています。聞こえない人・見えない人・車いすの人向けの「帰真園」ガイドへの取組みのほか、親子連れが多く来訪するので、ビジターセンター1階の「ふれあい休憩室」は、小さな子どもたちが楽しめるようにしました。公園の支え手「公園サポーター」に、現在75人が登録され、4つのグルー

プが活動。それぞれが“生物多様性”を高める取組みをしています。「みどりグループ」は、「循環」をテーマに、より良い環境づくりを目指し、活動します。枯死木での看板づくりや、生きものをよぶ場所づくり、森の生育調査、騒音や気温調査もします。「安全安心グループ」は、園内を見回り、より良い環境の維持を目指し、利用者とのコミュニケーションを重視して、活動します。犬の散歩をする人たちへの声掛けを、美化活動につなげたり、外来種のナガミヒナゲシ、アメ

リカオニアザミの除去もします。「こどもグループ」は、子どもの外遊びを企画・運営。虫とりや観察、クラフト、昔遊び、多摩川河川敷で遊ぶ、など「よりよい環境を楽しむ」ことを大切にします。なかでも「昆虫標本づくり」は、子どもにも保護者にも人気です。開園後にできた「ジュニアサポーター」は、スタッフや他グループの活動を自主的にお手伝いしてくれる近隣の小学生たちから始まりました。公園内の“生物多様性づくり”として「サンクチュアリ」の管理や、巣箱づくりもします。10月にはサンクチュアリの生きもの調査で、なんとタヌキを見つけたんですよ。

1階は現在、二子玉川公園に多い親子連れ向けに、未就学児コーナーとなっている。気軽に楽しめるプログラムや、生きものに目を向けるきっかけとして、ダンゴムシやカエルの展示なども。



### 5 ビジターセンター



水槽にヒキガエルが！



Hokubunji Gaisen



### 4 帰真園

オタマジャクシがかえると、それを採る子どもたちが池に鈴なりになるそうです。子どもたちに、安全に生きものを知り体験してもらえ、貴重な場所です。



### 3 サンクチュアリ

もともと何も無かった斜面地を、雑草を残して、生きものたちのすみかに。あえて草丈を高く残している。



外来種も共存するのが、都市部の生物多様性

### 2 いのちの森



1,400本を、あえて過密に植え、生存競争で生き残ってきた樹木から成る、「いのちの森」。



カオグロガビチョウ けたたましい鳴き声の外来種。来園者に慣れているのか、近づいても逃げませんでした。



手づくりネームプレート 枯死木を活用したプレート。文字はハンコで、来園者もいっしょに、つくります。

### 1 ナチュモコガーデン

園内スターバックスカフェで出た豆かす+落ち葉の堆肥をつかった「循環」。保育園のお散歩といっしょに水やりなど、日々の公園利用者を巻き込んで。



おっ！あの上から、ねらうんだね！



Building



Tamagawa River